

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東屋)

事業所番号	0670101971		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	グループホーム馬見ヶ崎		
所在地	山形市桜町一丁目17番23号		
自己評価作成日	平成 25 年 2 月 1 日	開設年月日	平成 17 年 7 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が自己選択、自己決定を出来る環境を設定し、互いに協力し合いながら一人一人の可能性を引き出していけるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成25年 2 月 22日	評価結果決定日	平成25年 3 月 18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は利用者中心のケアに徹し、暮らしを共にする関係を大切に役割や楽しみ事の支援を行い生活観のあるサービスを提供している。また、家族との関係も利用者の視点に立って絆を断ち切る事無く、かかわりの継続を大切に共に支えていく関係の構築に努力している。管理者等は、詳細で具体的な計画を作成し、利用者、家族、職員によるカンファレンスで介護の方針を話し合い理解を得ながら、理念に掲げる「今ある生きる力をいかんなく発揮して」「自分のことは自分で生きて行けるよう心身の機能・能力を低下させないようそと支援」を実践している。職員も理念を共有しその実現の為に寄添いながら見守りを徹底し黒子に徹し支援している。この事業所は来客があると利用者が自ら玄関に出迎え、お茶の接待を行うなどまさに共同生活の場である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設全体の理念は、職員が支援の指標として頭に入っているが、各ユニットでも独自の理念を掲げている。入居者の方と作り上げた理念を皆の集まる食堂へ飾っている。	事業所全体の理念を基に町内会のような「寄りあい」を行い、利用者と一緒に理念の実践のための目標を作っている。職員等は理念に掲げるとおり、利用者同士の関係を大切に、黒子に徹し見守り「利用者同士の和」の実現に向け努力している。また、見守りの中で自分でできる環境づくりに徹し、「今ある生きる力」が発揮できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会へ加入し回覧板を回し地域の行事へも声をかけていただいている。毎月の資源回収等も参加している。	町内会に加入し、様々な行事に参加すると共に、利用者と一緒に回覧板をまわしたり、買物等外出の際は、地域の方とのふれあいを大切にしながら地域とのつながりや交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパー等へ買い物に行き地域の人々に支援の方法を発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、家族や入居者の方を交え情報交換を行い実際に生活の様子が伝わるようにしている。	メンバーには、輪番で桜町1丁目から4丁目、馬見ヶ崎の町内会を交え様々な地域の方から意見を求めている。また、食事等生活の様子を実際に見て頂き、運営推進会議が実践的なものになるよう工夫もしている。会議では事業所の取り組み等が報告され、委員からは多様な意見が出され双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度介護派遣相談員を受け入れ、買い物のお同行、調理、食事のようすを実際に見ていただいている。	介護相談員を受け入れ、実際に生活状況を見て頂きながら意見等頂いている。個別の案件等は市窓口へ赴き、又は電話等で意見やアドバイスを受けながら問題解決に向け協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束排除宣言を実地しており、入居者の尊厳、安全を考えた対応をスタッフ間で共有している。</p>	<p>身体拘束排除宣言を通して、職員に周知している。職員は禁止対象となる具体的な行為を良く理解している。利用者一人ひとりと向き合い、問題となる行為等を職員同士あるいは会議の中で話し合い、原因やその対策を工夫し、安易に否定せず寄添いながら見守りを強化し、安全を確保し鍵をかけない工夫や身体拘束をしないで過ごす工夫を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待の研修等に参加したり、ミーティングで議論している。</p>	/		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用について制度の理解に努め、研修等行っている。</p>	/		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は十分に時間をとり家族の方に不安が残らない様に努めている。事前に見学にも来ていただいている。</p>	/		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の訴えには常に傾聴し思いを受け止めるようにしている。家族が参加できる行事を企画し話しやすい雰囲気を作っている。</p>	<p>管理者等は利用者と家族等との絆を大切にし、父母の会や忘年会等に家族の参加を呼びかけ家族と共に支える関係を大切にしている。面会や利用者、家族の参加を得たカンファレンスを通して意見や要望を積極的に引き出している。職員も家族への近況報告等を通じて事業所に来てもらえるよう工夫し、信頼関係を作りながら意見や要望を表し易い関係を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を行いスタッフの意見を反映できる体制がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回職能評価を行い職員が指針を持ち働ける環境がある。また、資格取得に向けた支援があり向上心が持てる職場環境がある。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1人1人の役割を考え計画→取り組み→実行までつなげ自信が持てるようにアドバイスしている。外部研修や職場内研修を行い発表の場につなげている。	職員一人ひとりが実際のケアを振り返り職能評価を行い、目標を設定し、力量の把握と働きながらトレーニングする環境を整えている。外部研修や法人による研修、職場内の研修と学ぶ機会は多い。特に職場内研修では、職員による勉強の成果を発表し、実践的で職員のレベルアップに繋がっている。資格取得にも積極的に取り組み支援している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県GH協会へ加入し交換研修などの研修に参加している。また、個別でも他の施設へ研修依頼し交流し質の向上に取り組んでいる。	県GH協会に加入し、研修会や交換研修を通して交流が行われている。個別でも研修依頼を行い積極的に交流している。交換研修の受入れや派遣により、事業所を見つめ直す機会になり、サービスの質の向上に繋がっている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い生活状況や本人からの要望などの把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯について十分なアセスメントを設け、契約時もじっくりと説明する時間を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	カンファレンス時に、本人、家族の意向をケアプランに反映するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	敬意を持った対応に心がけ毎日の食事作りや、どんな場面でも本人の意向を尋ね助け合いながら支え合う場を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に情報交換を行いコミュニケーションをはかり協力体制を築けるように心がけている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴を把握し今までの生活が継続できるように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で入居者同士の和が円滑になれるように、実感できるように努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を頂いたり、写真を送ったりし家族への相談にも応じている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で本人の希望や思いを把握し実践している。	普段のケアの中から言葉や表情を注意深く捉え、利用前の環境や家族からの意見等を踏まえ本人本位に検討している。利用者の思いを大切に、センター方式を一部取り入れ暮らし方の希望、意向の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なじみの家具や思い出の品を持参して頂き、生活環境に重点をおいている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	言葉や表情から本人の全体像の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で役割や得意なことを発揮できるようにケアプランに反映している。	毎月の担当者による詳細なモニタリングや利用者、家族、職員を交えたカンファレンスを通して、身体状況や意向が把握され得意なことや趣味、役割等を取り入れ、「今ある生きる力をいかに発揮し」その人らしい生活ができるよう検討され、具体的で詳細な介護計画の作成、見直しが行われている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目を通し、申し送りの中で日々の悩み、疑問点を話し合っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との関わりが継続できるように地域のスーパーに出かけ、顔なじみの関係得ている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望する医療機関となっている。また、主治医に相談を行っていただける関係を図っている。	利用者の希望するかかりつけ医の継続を支援している。受診時状況報告書により、事業所内での状況等を、家族、医療機関、事業所で情報の共有が図られるよう工夫している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師に診てもらったり連携を図っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	頻繁にお見舞いに行き主治医や機能訓練師等との情報交換に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針を定め家族から同意を得ている。	契約時に重度化した場合における対応の指針により、事業所の出来る事出来ない事等の説明が行われている。状況に応じながらカンファレンス等で繰り返し話し合い段階的な合意を得るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月テーマを決めた勉強会を行い初期対応が可能なように研修を行っている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、地域の講習会等にも参加している。	一昨年の目標達成計画に従い災害時の対応が検討されている。毎月災害や事故対応等の勉強会が行われ、年2回の夜間や日中を想定した避難訓練が行われている。地域の防災訓練に参加し、運営推進会議等を通じて地域への協力も呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、人格を否定しない言葉がけに気をつけている。スタッフ間でプライバシーの配慮を守れるようにしている。	事業所の基本方針達成の手段として「敬意をもって接する」を掲げ、職員は人生の先輩としての敬意を払い接している。職能評価により自分のケアを見つめなおし、普段から親しみのあまり不適切な言葉かけや対応が無いように職員同士注意し合い話合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、自己決定ができるように支援し、選択食にもつなげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時々、入居者の状況に合わせて利用者本位の生活につなげている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を楽しまれたり、行きつけの美容師へ行くなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材や広告を見たり、皆で決め、食材の買い物、調理、食事、配膳等入居者と協同で行っている。	食事は3食事業所内で調理している。毎日利用者の希望を聞き、選択食を取り入れ利用者の好みに合わせている。買物や調理、配膳、後片付け等、利用者には役割を担ってもらい食事への興味や機能維持に繋げ、家庭的で笑顔の絶えない食事の風景であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は旬の物を取り入れ、食事内容や食事量を把握し、個々に合った形態を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣や、意向を踏まえ口腔ケアを行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人一人に合わせ快適に生活できるように配慮している。	排泄パターンの把握から適時の誘導等により排泄の自立に向けた支援を行っている。利用者個々の計画に支援内容を具体的に位置づけモニタリングと評価を繰り返しながら、排泄の自立に向け努力している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分、カスピ海ヨーグルトやプルーンをとったりし自然排便につなげている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に沿って入浴して頂いている。	利用者の希望や習慣に合わせてながら、朝から夜まで入浴できるよう支援している。リフト浴も設備し、身体状況に合わせて安全に入浴が出来るよう支援されている。季節の変わり湯等入浴が楽しみになるような工夫も行われている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて休んで頂いている。疲れがとれるように就寝前に入浴して頂くなど工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて、薬の内容を把握し、不明な点は薬剤師に相談している。薬の変更時は状態把握に努め次回受診時に変化等を主治医に伝えている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、得意なことが発揮できるように、個別でもゆっくり出かけられるように気分転換につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日のようにスーパーに買い物に出かけたり、思い出の地や、レストランなど希望に叶えられるように努めている。	行事としての外出や日常的な買物や散歩、デッキ等を利用した外気浴、個人的に実家や兄弟への訪問等多様な外出の機会が工夫されている。また、家族の協力による美容院や外食等様々な支援が行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の財布で欲しいものを購入し支払いができる環境を心掛けている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	玄関に公衆電話があり、好きな時に家族等へ電話をできる支援をしている。年賀状や手紙のやり取りも行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる花や神棚、すいそうなど生活感がある環境に心がけ一つのテーブルを皆で囲みながら共同生活をしている。	神棚や茶箆等馴染みの生活観がある居間・食堂となっている。また、利用者同士「和」が強くなるよう大きなテーブルで食事を囲み、会話を楽しみながら明るく過ごせる環境となっている。温度や湿度が管理され、職員と利用者による掃除も行き届き家庭的で快適な空間である。廊下には長椅子が配置され休息や気分転換が出来るよう工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の長いすで話をしたり利用者同士互いに部屋を行き来し、お茶飲みなどされている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇などなじみの物を配置しました、家族にも好きな時に泊っていただけるようにしている。	利用前の環境のギャップを感じさせないよう使い慣れたものや趣味のもの等が配置され、飾りつけも思い思いになされ居心地良く過ごせるよう工夫されている。家族との絆を大切にしながら好きな時に泊まれるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ところどころに、自己完結できるように目印等をし、できることが増える工夫に心がけている。		